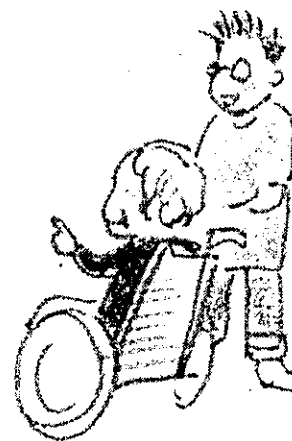


「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の
実現を目指して

第6次高浜市総合計画 基本計画【後期】

施策評価シート

〔平成30年度の取組みに対する行政内部の評価〕



令和元年7月

目 次

1. はじめに

- (1) 「施策評価」(点検・確認)のねらいと実施方法 . . . 2
- (2) 基本計画[後期]の体系 . . . 6
- (3) 施策評価シート とりまとめ部署一覧 . . . 10

2. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果

- (1) 基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果 . . . 12
- (2) 「みんなで目指すまちづくり指標」一覧 . . . 14

3. 施策評価シート

- (1) 施策評価シートの見方 . . . 18
- (2) 施策評価シート

基本目標Ⅰ. みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

- 目標(1) まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくり
ます . . . 20

- 目標(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います . . . 22

基本目標Ⅱ. 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう

- 目標(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます . . . 24

- 目標(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます . . . 26

- 目標(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます . . . 28

基本目標Ⅲ. 明日を生み出すエネルギー やる気を活かせるまちをつくろう

- 目標(6) 産業を活性化して、まちを元気にします . . . 30

- 目標(7) みんなでまちをきれいにします . . . 32

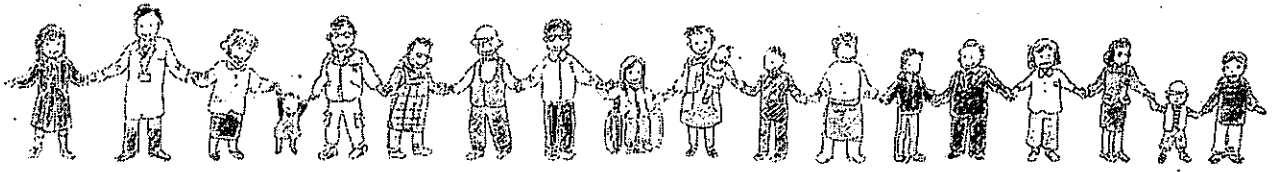
- 目標(8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります . . . 34

- 目標(9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます . . . 36

基本目標Ⅳ. いつも笑顔で健やかに つながり 100倍ひろげよう

- 目標(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます . . . 38

- 目標(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します . . . 40



1

はじめに

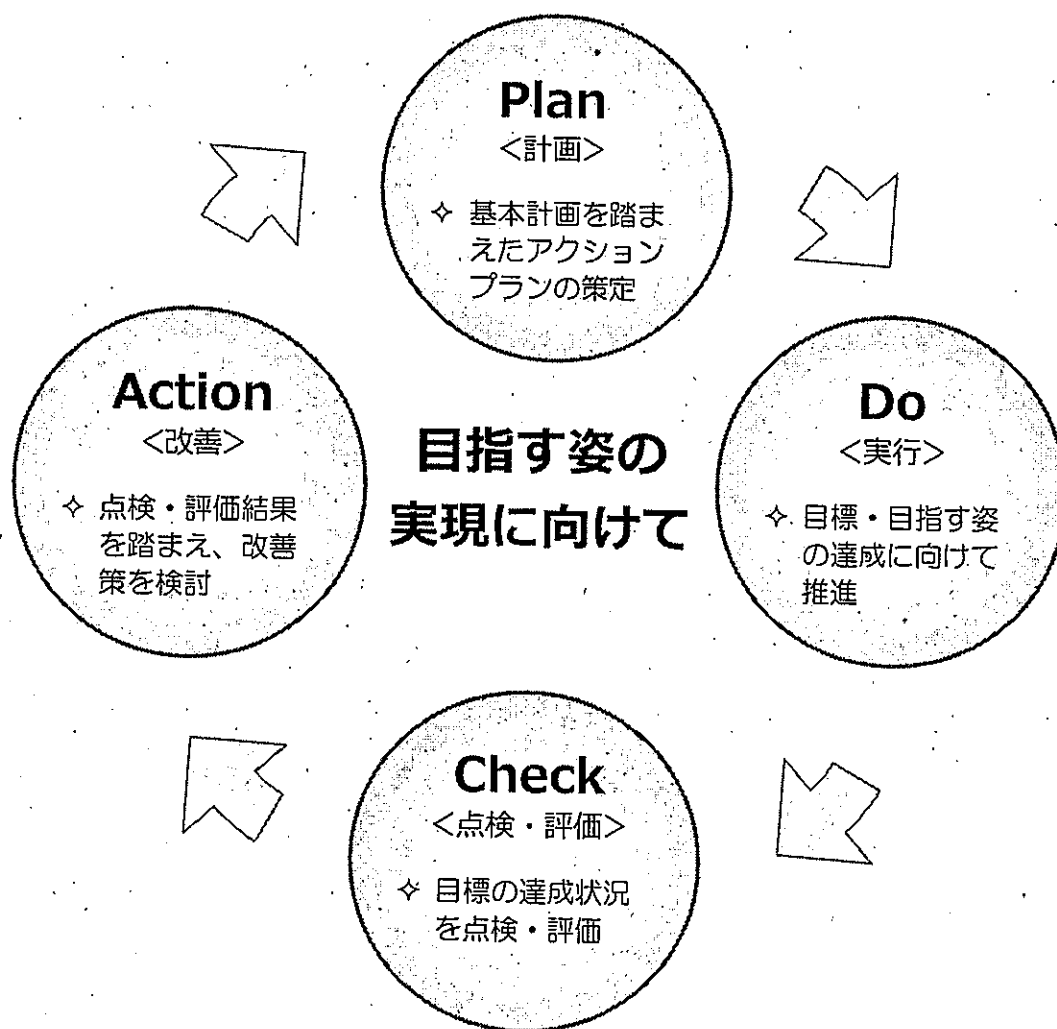


■ □ (1) 「施策評価」(点検・確認)のねらいと実施方法 □ ■

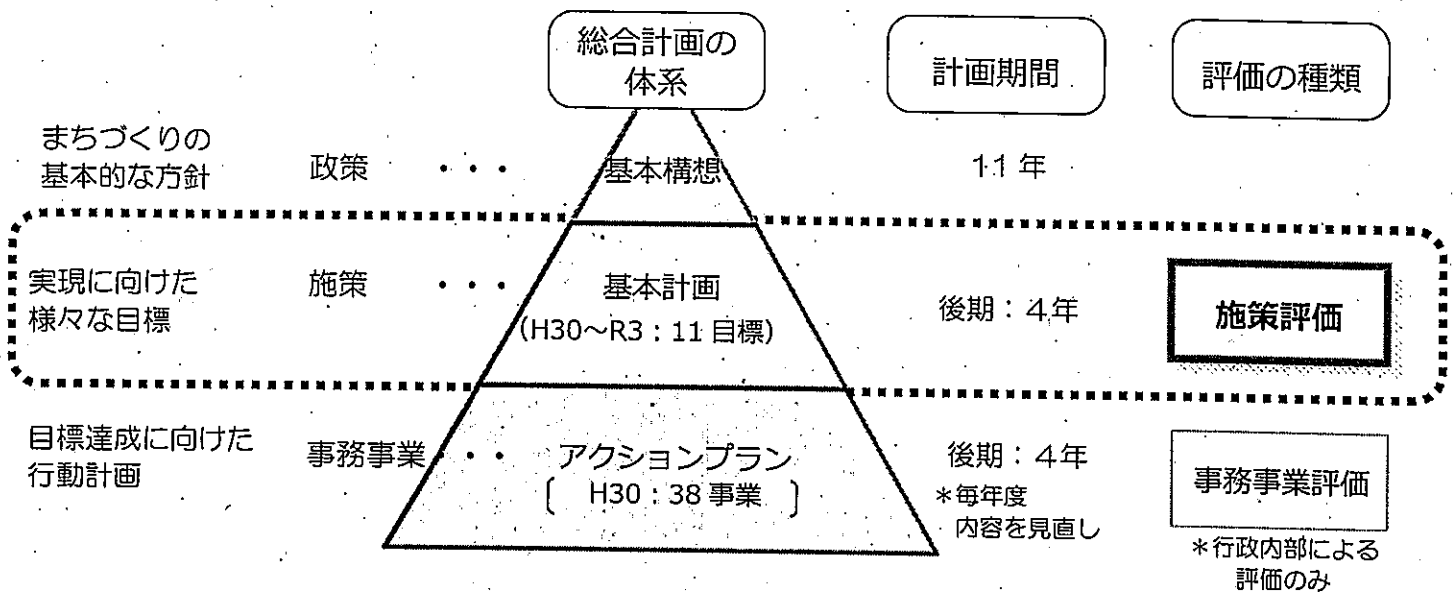
■ 目指す姿の実現に向けて、計画を着実に推進していくために…

- ◇ 総合計画は、みんなで力を合わせて高浜市をつくっていくために「こんなまちにしていこう!」というまちづくりの目標を掲げ、その実現に向けて必要な取組内容を盛り込んだ、「高浜市のまちづくりの設計図」です。
- ◇ 総合計画を実効性のあるものとしていくため、「自治基本条例」と「第6次総合計画」に「計画の進行管理」を位置づけ、PDCAサイクル*に基づき、目標の達成状況の点検・検証、事業の見直し・改善を行うことを宣言しています。

*「PDCAサイクル」… 計画(Plan)し、実行(Do)し、その結果を評価・検証(Check)し、改善策や次の施策に活かしていく(Action)こと。



■ 総合計画の体系と評価(点検・確認)の種類



■ 「施策評価」(点検・確認)とは

◇ 「施策評価」(点検・確認)とは、目指す姿の実現に向けて、「後期基本計画」に掲げる11目標について様々な観点から点検・確認し、その結果を「アクションプラン」の見直しに反映させ、よりよい行政サービスにつなげることをいいます。

高浜市自治基本条例

第21条(総合計画の策定等)
第3項

行政は、成果を重視した市政運営を目指すため、総合計画の進行管理を行い、その状況をわかりやすく公表します。

第6次高浜市総合計画

中期基本計画 第4章 計画の進行管理

総合計画の基本計画に掲げる目標の達成に向け、その達成状況を点検・確認し、事業の見直し・改善を行うPDCAサイクルを組み入れ、適切な進行管理を行います。

施策評価(点検・確認)のねらい

①緊張感を保ちながら、よりよい行政サービスにつなげるために ~市民目線を意識して~

総合計画に掲げた目指す姿の実現に向けて、「総合計画推進会議」や「市民意識調査」、日頃の業務を通じてなど、多様な方法で市民の皆さんの声をお聞きし、行政が行っている事業が市民のみなさんの役に立っているかどうかを、緊張感を保ちながら様々な観点から評価(点検・確認)し、事業の見直し・改善に反映させることにより、よりよい行政サービスにつなげる。

②市民とともに課題を考え、解決に向けて行動していくために ~情報共有と説明責任~

市民と行政が市政運営やまちづくりの課題などについて共通認識を持ち、解決策についてともに考え、目指す姿の実現に向けて行動できるように、後期基本計画に掲げる目標の推進状況、目標の達成状況などの点検・確認結果などを、市民にわかりやすく公表・情報を共有することにより、市政の透明性を高め、説明責任を果たす。

■ 2段階評価による実施

- ◇ 「施策評価」(点検・確認)は、行政内部による評価と、市民目線で取組内容や効果等を点検・確認していただく外部評価(第6次高浜市総合計画推進会議)の2段階で実施します。

■ 評価(点検・確認)結果の活用・反映

- ◇ 第6次総合計画推進会議による評価(点検・確認)結果をとりまとめ、市長へ提出します。

- ◇ 評価(点検・確認)結果のうち、すぐ実行に移せるものについては、平成31年度に実行中の事業に反映し、実行していく。
- ◇ 予算措置等が必要で、すぐに実行できないものは、令和2年度アクションプラン策定の際の検討材料として活用する。



評価(点検・確認)結果を公表することにより、市民と情報を共有し、説明責任を果たす。

第6次高浜市総合計画推進会議

〔所掌事務〕

（「第6次高浜市総合計画推進会議設置規則」より）

- 1) 総合計画の進行管理に関する事項
- 2) その他総合計画の推進に関する事項

具体的には ↓

- ◇ 後期基本計画に掲げた施策（11 目標）について、行政がとりまとめた「施策評価（内部評価）」の内容を点検・確認し、目標の達成に向けた意見・アイデア等を述べる。

＜点検・確認の主な視点＞

- ①取組内容は、目標達成のための手段として適切だったか。
- ②「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」の結果分析や課題把握は的確か。
- ③課題の解決に向けた今後の取組み（案）は、目標達成に資する内容となっているか。

- ◇ 「点検・確認結果」をとりまとめ、市長へ提出する。
- ◇ 推進会議が提出した「点検・確認結果」が、施策・予算等へ反映されているかを確認し、必要に応じて意見を述べる。
- ◇ 推進会議の進め方について協議する。
- ◇ 推進会議のあり方について検討する。

〔構成〕 12 名

- ・ 中川幾郎氏（帝塚山大学大学院名誉教授）
- ・ 市民（10名）
- ・ 副市長

〔開催頻度〕 年 4 回程度

☆意見を述べる

☆点検・確認結果を報告

キャッチボール

☆検討資料の提示

☆求めに応じて関係職員が出席

行政

市長

【部長会】

〔役割〕

- ◇ 後期基本計画の進行管理に向けた総合調整を行う。
- ◇ 推進会議が行う調査・審議に対し、求めに応じた報告や資料等の調整を行う。

資料を提出 ↑

職員へ指示 ↓

【各担当グループ】

〔役割〕

- ◇ 後期基本計画に掲げた目標の達成に向けて、施策・事業を推進する。
- ◇ 推進会議が行う調査・審議に対し、求めに応じた報告や資料等の作成を行う。
- ◇ 推進会議から示された意見等について、実現可能かどうかを検討し、施策・予算等へ反映する。

【事務局】（総合政策グループ）

〔役割〕

- ◇ 後期基本計画の進行管理事務、推進会議の運営を行う。
- ◇ 推進会議の求めに応じた資料等の取りまとめを行う。
- ◇ 進行管理にあたって必要な各種データ・情報の収集を行う。

参画・協働・情報共有

たかはま未来カフェ

〔目的〕 後期基本計画を推進する中で、行政が抱える課題の解決・改善につながる具体的なアイデアをいただく。

市民

【点検・確認】

- ★ 市民や地域が関わるソフト系の施策（取組み）を中心に、事業をより良くするためのアイデアや改善点などの意見・提案を出す。

行政

- ★ 未来カフェの取り回しを行う。
- ★ 市民のみなさんが意見・提案を出しやすいようにデータを調べたり、検討資料を作成するなど、わかりやすく情報を示す。

■□ (2) 基本計画【後期】の体系□■

基本計画【後期】は、基本構想に定めた将来都市像「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ」までに、市民・地域・事業者・関係機関・行政が協働して取り組むまちづくりの方向性やための具体的な方策・手段（こんなことに取り組みます）を35本掲げます。

都市像	基本目標	目標	こんなことに
思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかほま	I みんなで考え みんなで汗かき みんなの まちを創ろう	(1) まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくり	☆市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極
			☆市民・地域・行政が得意分野を活かし、それぞれの
			☆職員のワークライフバランスを考えた「働き方」改
		(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います	☆市の財政運営や税金に関する情報など、市民の知り
			☆工業用地の創出、市税徴収力の強化、受益者負担の適
			☆公共施設の再編や長寿命化に対する市民の理解を
	II 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を 育もう	(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます	☆市民とともにまちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・
			☆市民（特に子ども・若者）の「知りたい」「やって
			☆「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」気
		(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます	☆異校種間連携事業で、自分や周りのよさに気づいたり、
		☆高浜カリキュラムで、高浜の人・もの・ことを活か	
		☆高浜カリキュラム教科版で、優れた授業実践案を集約・	
		☆支援の必要な児童生徒の「特別支援ファイル」の作成と引き継ぎ	
	(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます	☆「高浜市子ども・子育て支援事業計画」に沿って、	
		☆子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、子	
		☆身近な場所に、子どもの自主性・社会性をはぐくめ	

「大家族たかはま」を実現するため、平成30年度（2018）から令和3年度（2021）目標を示したものです。目指すべき姿（個別目標）を11目標、目標値や目標を達成する

取り組みます！
まず
的な情報発信を行うとともに、対話の場をつくります。
ステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。
革と、職員が地域に関わる“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。
たい財政情報を積極的にわかりやすく発信します。
正化など、財源の確保に努めるとともに、真に必要な事業を見極め、限りある財源のより効率的・効果的な活用に取り組みます。
高めるとともに、順次、個別施設計画を策定し、公共施設総合管理計画の着実な推進につなげます。
産業・景観など）を掘り起こし、守り、伝え、活かしていく活動を強化します。
みたい」「役立ちたい」を応援し、市民同士が学び合い、高め合う場づくりを進めます。
軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。
よさを活かしたりできるよう、支援します。また、異校種参観で教師力を向上させ、子どものよさを引き出す指導を展開します。
した教育を実践します。また、活用型のカレンダーを使って「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知します。
活用したり、ICTを活用した授業や、高浜版プログラミング教育を実践したりして、主体的・対話的で深い学びを支援します。
を確実に行うシステムを構築します。また、教職員の特別支援教育への理解をより深めるとともに、指導力・実践力の向上をめざした研修を充実します。
多様で柔軟な保育サービスの提供など、教育・保育ニーズに対応し、待機児童ゼロをめざします。
育ち・子育てを支える大人を増やしていきます。
るよう、自然に世代間や異年齢交流などができる場を増やしていきます。

都市像	基本目標	目標	こんなことに
思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかほま	Ⅲ 明日を 生み出す エネルギー やる気を 活かせる まちをつくらう	(6) 産業を活性化して、まちを元気にします	
		☆農地とのバランスを考慮しつつ新たな工業用地を ☆災害による風評被害の払しょくや伝統性を活かした商品開発 ☆高浜高校SBP（ソーシャルビジネスプロジェクト） ☆高浜市観光協会や関連団体が行うイベントや高浜	
		(7) みんなでまちをきれいにします	
		☆地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境保全 ☆循環型社会の構築に向け、資源ごみのリサイクルを ☆「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推	
		(8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります	
		☆道路や橋りょう等の計画的な維持管理のため、調 ☆災害時でも水が安定的に供給できるよう、災害時選 ☆公園施設長寿命化計画に則って計画的に公園施設	
		(9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます	
		☆自然災害に対し、市民・地域・事業者・関係機関と ☆「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」に ☆地域・警察・事業者・関係機関と連携し、特に自転	
		Ⅳ いつも笑顔で 健やかに つながり 100倍 ひろげよう	(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めま
	☆生活困窮、介護、障がい、育児など、支援が必要な ☆その人に合った暮らしを実現するため、地域の実情 ☆福祉サービスやふだんの生活を支えるための多様		
	(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します		
	☆生涯をとおして健康を意識し、生活の質を高めるた ☆高齢者の居場所である「健康自生地」を応援すると ☆疾病を早期に発見し、適切な治療が受けられる「か		

取り組みます！
創出し、企業誘致を進めるとともに、既存企業の投資意欲を高める支援策を推進します。
、ブランド化など、地場産業である三州瓦の優位性やデザイン性をPRするため、「高浜市みんなで三州瓦をひろめよう条例」を推進します。
ト)を支援し、高浜市の産業を全国的にPRするなど、ビジネス手法を用いた若い世代の育成支援をします。
市のPRに対し人的支援、活動支援をします。
活動に取り組みます。
進め、ごみの減量化に取り組みます。
進し、環境美化活動を進めます。
査・点検を進め、改良や修繕を行います。
難所へ水道を供給する配水管を耐震管に布設替えするなど、耐震化を進めます。
の修繕を進めるとともに、地域の関係団体と協働で「緑のあるまちづくり」を進めます。
「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携強化を図り、実践的な防災・減災活動に取り組みます。
基づき、地域・警察等で構成する高浜市防犯ネットワーク会議を軸に、犯罪抑止活動を推進します。
車の運転マナーの向上、高齢者や子どもの交通事故防止に向けた取り組みなど、交通安全対策を進めます。
す
人に対し、早期かつ包括的な相談支援を行い、各々の事情に応じた支援につなげます。
に応じて、福祉サービスや地域の支え合いの充実を図ります。
な人材を養成します。
めの健康づくり活動を応援します。
ともに、担い手としての活躍の場を創出します。
かりつけ医」を持つよう働きかけるとともに、地域医療の充実と医療と介護の連携を推進します。

■ □ (3) 施策評価シート とりまとめ部署一覧 □ ■

◎=とりまとめグループ

<基本目標Ⅰ>

みんなで考え
みんなで汗かき
みんなのまちを
創ろう

企画部長 深谷直弘
総務部長 内田 徹

目標 (1) まちへの想いを育み、
いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります

◎企画部 総合政策グループ
企画部 秘書人事グループ

目標 (2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います

◎総務部 財務グループ
企画部 ICT 推進グループ
教育委員会 学校経営グループ

<基本目標Ⅱ>

学び合い
力を合わせて
豊かな未来を
育もう

教育長 都築公人
こども未来部長 木村忠好

目標 (3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます

◎こども未来部 文化スポーツグループ

目標 (4) 学校・家庭・地域が連携を深め、

12年間の学びや育ちをつなげます

◎教育委員会 教育センターグループ

目標 (5) 子育て・子育てを支える環境を整えます

◎こども未来部 こども育成グループ

<基本目標Ⅲ>

明日を生み出す
エネルギー
やる気を活かせる
まちをつくろう

都市政策部長 杉浦義人
市民部長 中村孝徳

目標 (6) 産業を活性化して、まちを元気にします

◎市民部 経済環境グループ
都市政策部 都市計画グループ

目標 (7) みんなでまちをきれいにします

◎市民部 経済環境グループ

目標 (8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります

◎都市政策部 土木グループ
都市政策部 上下水道グループ

目標 (9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます

◎都市政策部 防災防犯グループ

<基本目標Ⅳ>

いつも笑顔で
健やかに
つながり 100 倍
ひろげよう

(福祉部長 加藤一志)

目標 (10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます

◎福祉部 地域福祉グループ
福祉部 介護障がいグループ
福祉部 福祉まるごと相談グループ
福祉部 健康推進グループ

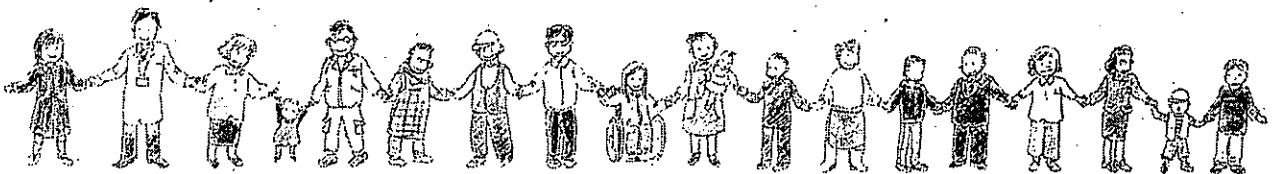
目標 (11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します

◎福祉部 健康推進グループ
福祉部 福祉まるごと相談グループ



2

「市民意識調査」 「みんなで目指す まちづくり指標」 結果



■ □ (1) 基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果 □ ■

目標	計画策定時の値 (平成29年)	実績値	動向
		(平成30年)	
(1) まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります	62.2%	61.8%	×
(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います	46.6%	45.1%	×
(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちの子カラを育みます	55.2%	53.4%	×
(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます	58.8%	62.0%	○
(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます	54.7%	55.5%	○
(6) 産業を活性化して、まちを元気にします	21.0%	27.7%	○
(7) みんなでまちをきれいにします	66.2%	65.6%	×
(8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります	44.8%	50.2%	○
(9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます	57.7%	55.3%	×
(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	63.0%	58.5%	×
(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	65.8%	61.7%	×

※「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の合計

【動向】

○…実績値(平成30年)が計画策定時の値(平成29年)を上回っている。

△…実績値(平成30年)が計画策定時の値(平成29年)と同じ。

×…実績値(平成30年)が計画策定時の値(平成29年)を下回っている。

MEMO

■ □ (2) 「みんなで目指すまちづくり指標」 一覧 □ ■ ※=市民意識調査で把握

目標	目標の達成度を計る指標	計画策定時の値 (平成29年)	実績値 (平成30年)	動向	目標値 (令和3年)
(1) まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります	市の情報発信に満足している人の割合 ※	47.3%	62.0%	○ ↗	65% ↗
	地域活動に参加したことがある人の割合 ※	62.9%	58.6%	× ↘	70% ↗
	市民と一緒に地域活動に取り組んでいる職員の割合	54.0%	55.0%	○ ↗	66% ↗
(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います	経常収支比率	88.8%	89.3%	◎ ↗	80%台維持 ↗
	将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合 ※	46.6%	45.1%	× ↘	55% ↗
(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合 ※	71.4%	66.4%	× ↘	76% ↗
	将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合 ※	76.1%	75.8%	× ↘	81% ↗
	持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合 ※	28.5%	27.9%	× ↘	35% ↗
(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます	自分や周りのよさを認める子どもの割合 ※ ★注意1	78.5%	90.3%	◎ ↗	85% ↗
	地域や社会に関心をもつ子どもの割合 ※ ★注意2	59.2%	74.5%	◎ ↗	70% ↗
	学習が将来、役立つと感じている子どもの割合 ※ ★注意3	76.7%	80.4%	○ ↘	85% ↗
(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます	子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合 ※	66.0%	65.9%	× ↘	70% ↗
	子どもに対して理解のある大人の割合 ※	66.2%	70.1%	○ ↗	94% ↗
	待機児童数	17人	19人	× ↗	0人 ↘
(6) 産業を活性化して、まちを元気にします	市内の法人数	919社	937社	◎ ↗	930社 ↗
	行政がかかわるイベントの来場者数	86,000人	89,000人	○ ↗	100,000人 ↗
	製造品出荷額等	5,123.5億円	4,941.1億円	× ↘	6,227.7億円 ↗
(7) みんなでまちをきれいにします	日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合 ※	77.9%	75.2%	× ↘	85% ↗
	1人1日あたりの家庭ごみ排出量	540g	564g	× ↗	490g ↘
	市民一斉清掃や地域・企業での清掃活動に参加したことがある人の割合 ※	60.4%	59.6%	× ↘	71% ↗

■ □ (2) 「みんなで目指すまちづくり指標」 一覧 □ ■ ※=市民意識調査で把握

目標	目標の達成度を計る指標	計画策定時の値 (平成29年)	実績値 (平成30年)	動向	目標値 (令和3年)
(8) 自然と都市機能が調和した 都市空間をつくります	道路の長寿命化を計画的に実施した 割合(幹線道路の舗装)	18.4%	23.1%	○ ↗	38.6% ↗
	配水管の耐震化率	18.5%	20.5%	○ ↗	25% ↗
	公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地 等を利用している人の割合 ※	20.2%	24.6%	○ ↗	23% ↗
(9) 安全・安心が実感できる地域 づくりを進めます	家具を固定している人の割合 ※	59.1%	61.0%	○ ↗	70% ↗
	防災訓練に参加したことのある人の 割合 ※	61.9%	61.7%	× ↘	72% ↗
	人口1,000人あたり犯罪発生件数	6.9件	6.5件	○ ↘	6.0件 ↘
	人口1,000人あたり交通事故発生件 数	3.9件	3.7件	○ ↘	3.0件 ↘
(10) 一人ひとりを認め合い、その 人らしく暮らせるまちづくりを 進めます	いきいき広場(相談窓口)を知っている 人の割合 ※	72.3%	74.8%	○ ↗	80% ↗
	高浜市内でボランティア活動に参加し たことがある人の割合 ※	29.7%	28.3%	× ↘	36% ↗
(11) 一人ひとりの元気と健康づく りを応援します	日常的に外出や運動を楽しんでいる 人の割合 ※	63.4%	66.3%	○ ↗	71% ↗
	かかりつけ医を持っている人の割合 ※	78.6%	74.7%	× ↘	84% ↗

- ★注意1 2つの設問の平均値…①自分は成長している(成長した)と思いますか
②あなたの周りには、お互いの考えを認めたりよさを見つけたりすることができていると思いますか
- ★注意2 2つの設問の平均値…①あなたは、高浜の人、もの、ことに関心がありますか
②あなたは、社会に関心をもって、新聞を読んだり、テレビやネットのニュースを見たりしますか
- ★注意3 4つの設問の平均値…①分からないことがあった時、調べたり、どういふことか考えたりしますか
②学習したことを活用していろいろな問題の解決に役立っていますか
③学習したことや考えたことを、表現を工夫して人に伝えたことはありますか
①②③の繰り返し、将来役に立つと感じますか

【指標の動向】

- ◎=実績値(平成30年)が目標値(令和3年)に達している。 <4指標/31指標> (12.9%)
 ○=実績値(平成30年)が目標値(令和3年)に達していないが、計画策定時の値(平成29年)を上回っている。 <13指標/31指標> (41.9%)
 △=実績値(平成30年)が計画策定時の値(平成29年)と同じ。 <0指標/31指標> (0%)
 ×=実績値(平成30年)が計画策定時の値(平成29年)を下回っている。 <14指標/31指標> (45.2%)

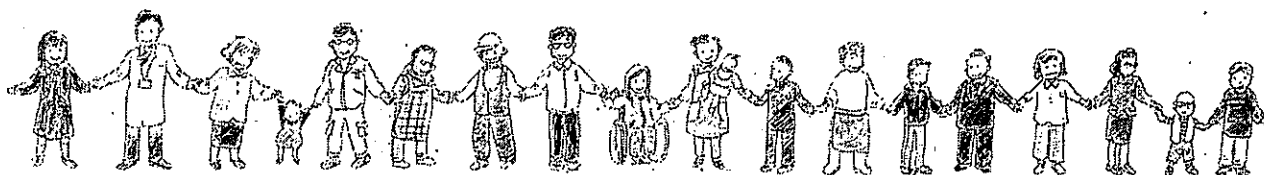
【参考】

設問	H26	H27	H28	H29	H30	H31
高浜市のまちづくりのキャッチフレーズ「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を知っていますか。	39.9% ↗	41.4% ↗	43.4% ↗	48.0% ↗	46.7% ↘	43.7% ↘



3

施策評価 シート



【施策評価シートの見方】

目標(1). まちへの想いを育み、いつまでも 住み続けたいと思えるまちをつくります

総合計画から転載していません。

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい!」と思える高浜市を未来へとつないでいくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力できる「つながるまちづくり」を進めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ まちの課題や目標が市民と行政で共有され、市民が市政を身近に感じ、市政に対する関心・理解、満足感が高まっています。 ◇ 市民のまちへの愛着が高まり、まちのことを「自分ごと」として考え、まちを大切にし、自分にできる“まちづくり”を行っています。 ◇ 職員一人ひとりが地域課題について考え、市民や地域の想いに寄り添いながら、課題の解決に取り組んでいます。

II. 目標達成のための主な取り組み(「こんなことに取り組めます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極的な情報発信を行うとともに、対話の場をつくります。【総合政策グループ】	
<ul style="list-style-type: none"> ◆高浜市市民記者制度実施要綱を制定し、広報たかはまにおいて記者募集を行い、応募のあった市民2名を市民記者として任命した。 ◆市公式フェイスブックと市民記者制度との連動について検討を行った。 ◆総務省から地域情報アドバイザーを招き、今後の広報のあり方を見直した。 ◆広報主任者会議において地域情報アドバイザーによる講義を開催した。 ◆西三河広報研究会において、「HP への CMS 導入の事前準備について」という議題をあげ、各市町の取り組みを参考にし、市公式ホームページのリニューアル及び投稿型行事カレンダー運用に向けた検討を行った。 	2018.8~ — 2018.12 2018.12 2018.11
(2) 市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、それぞれのステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。【総合政策グループ】	
<ul style="list-style-type: none"> ◆開催された「のびゆく高浜編集委員会」に出席し、趣旨説明を行った。 ◆第5期生5名を新たに任命し、各まち協に新たに1名ずつ派遣した。 ◆たかはま未来カフェを開催し、市民42名が参加し、10年先の高浜市の理想の姿と、それを実現する方法を話し合った。 ◆若者をターゲットにしたざくばらんなカフェ Vol.56 を開催した。 ◆若者会議メンバーの募集をおこなった。 ◆まち協サミットにて、今後の予算の策定方法について協議を行った。 	2018.7 — 2018.8 2018.9 2018.8 2019.2 —
(3) 職員のワークバランスを考えた「働き方」改革と、職員が地域に関わる“きかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行いま	
<ul style="list-style-type: none"> ◆タイムマネジメント(オーナーシップ) ◆管理職を対象としたイクボス研修を2 ◆女性活躍推進に向け、県研修センター ◆組織体制の見直しについては、12月 ◆管理職リーダー研修は対象を主査・主 ◆若手職員成長支援研修を実施した。 ◆まち協特派員研修は年間を通じて実施 ◆市制50周年記念事業職員プロジェクトを設置し若手・中堅職員実践研修として活動開始した。 	2018.●~

【行政の記載内容】

後期基本計画で掲げた目標の達成に向けて、平成30年度にどんなことに力を入れて取り組んできたか、主な内容を記載します。

【推進会議の着眼点】

平成30年度に実施した取組内容は、目標達成のための手段として適切だったか。

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)
市民意識調査	【設問】まちを愛する想いが生まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う				
みんなで目指すまちづくり指標	いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合				目標値
	地域活動に参加したことがある人の割合				目標値
	地域活動に参加したことがある				

目標の達成度合いをはかる「市民意識調査」と「みんなで目指すまちづくり指標」の数値の推移を示します

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

【行政の記載内容】

「市民意識調査結果」や「指標の推移」を踏まえ、指標（目標）が達成できた要因・達成できなかった要因の分析、「市民意識調査結果」や「指標の推移」から見えてきた課題を、箇条書きで分かりやすく記載します。

※指標の目標値を見直す場合は、見直しにあたっての考え方と新たな目標値を記載します。

【推進会議の着眼点】

- ① 「Ⅱ. 目標達成のための主な取組み」の成果との関連を踏まえた分析が行われているか。
- ② 指標等の結果から見えてきた課題が、適切に分析されているか。
- ③ 課題解決に向けた考え方・方向性が示されているか。
- ④ 「みんなで目指すまちづくり指標」や目標値の見直しは必要ないか。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
(1)	◆	
<p>【行政の記載内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 平成30年度の取組みや市民意識調査結果・指標の状況から見えてきた課題、新たに発生している課題を、<u>優先度の高い順に3つ挙げます。</u> ◇ どのように課題解決に取り組んでいこうと考えているのか、<u>新たな取組み（案）</u>や<u>見直し・改善（案）</u>を記載します。 ◇ 課題解決に向けた<u>新たな取組み（案）</u>、<u>見直し・改善（案）</u>に掲げた内容に、<u>いつから（いつまでに）</u>取組むのかを記載します。 <p>【推進会議の着眼点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「課題」は、「市民意識調査」や「みんなで目指すまちづくり指標」の分析を踏まえたものとなっているか。 ② 「課題解決に向けた新たな取組み（案）や見直し・改善（案）」は、課題を的確に踏まえたものとなっており、具体的な事業を想定して記述されているか。 ③ 特に、指標等が低下したものについては、<u>新たな取組み（案）</u>や<u>見直し・改善（案）</u>がしっかりと練られているか。 ④ 記載内容の他に、目標の達成に向けて改善すべき課題や今後の取組みにつながるアイデアはないか。 		

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

推進会議委員からのコメントをまとめます。

目標(1) まちへの想いを育み、いつまでも 住み続けたいと思えるまちをつくりま

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい!」と思える高浜市を未来へとつないでいくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力できる「つながるまちづくり」を進めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ まちの課題や目標が市民と行政で共有され、市民が市政を身近に感じ、市政に対する関心・理解、満足感が高まっています。 ◇ 市民のまちへの愛着が高まり、まちのことを「自分ごと」として考え、まちを大切にし、自分にできる“まちづくり”を行っています。 ◇ 職員一人ひとりが地域課題について考え、市民や地域の想いに寄り添いながら、課題の解決に取り組んでいます。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極的な情報発信を行うとともに、対話の場をつくりま	
<ul style="list-style-type: none"> ◆高浜市市民記者制度実施要綱を制定し、広報たかはまにおいて記者募集を行い、応募のあった市民2人を市民記者として任命した。 ◆市公式フェイスブックと市民記者制度との連動について検討を行った。 ◆総務省から地域情報アドバイザーを招き、今後の広報のあり方を見直した。 ◆広報主任者会議において地域情報アドバイザーによる講義を開催した。 ◆今後実践していくべき広報活動のあり方をまとめた、「高浜市広報戦略」を策定した。 ◆西三河広報研究会において、「HPへのCMS導入の事前準備について」という議題をあげ、各市町の取り組みを参考にし、市公式ホームページのリニューアル及び投稿型行事カレンダー運用に向けた検討を行った。 	<p>H30.8</p> <p>—</p> <p>H30.11</p> <p>H30.12</p> <p>H30.12</p> <p>H30.11</p>
(2) 市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、それぞれのステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆「のびゆく高浜編集委員会」と高浜市自治基本条例の掲載について調整した。 ◆第5期生5人を新たに任命し、各まち協に新たに1人ずつ派遣した。 ◆たかはま未来カフェを開催し、市民42人が参加し、10年先の高浜市の理想の姿と、それを実現する方法を話し合った。 ◆若者をターゲットにしたざっくばらんなカフェVol.56を開催した。 ◆市制50周年記念事業検討に連動し、若者会議メンバーの募集をおこなった。 ◆まち協サミットにて、今後の予算の策定方法について協議を行った。 	<p>—</p> <p>H30.4</p> <p>H30.8</p> <p>H30.8</p> <p>H31.2</p> <p>H30.10</p>
(3) 職員のワークバランスを考えた「働き方」改革と、職員が地域に関わる“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆タイムマネジメント(オーナーシップ)研修を主事級職員を対象に実施した。 ◆管理職を対象としたイクボス研修を2回実施した。 ◆女性活躍推進に向け、県研修センター主催の女性活躍推進研修に2人の女性職員が参加した。 ◆行政の合理化・効率化・明確化を推進するために組織体制の見直しを実施した。 ◆管理職リーダー研修は対象を主査・主任まで広げ4回実施した。 ◆採用後1年目の職員を対象とした若手職員成長支援研修を年間を通じて実施した。 ◆まち協特派員研修は年間を通じて実施した。 ◆市制50周年記念事業職員プロジェクトを設置し若手・中堅職員実践研修として活動開始した。 	<p>H30.12</p> <p>H30.7-8</p> <p>H30.12</p> <p>H31.3</p> <p>H31.2</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>H30.12</p>

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】まちを愛する想いが育まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う (%)					
	62.2	61.8				
みんなで目指すまちづくり指標	市の情報発信に満足している人の割合 (%)					目標値
	47.3	62.0				65
	地域活動に参加したことがある人の割合 (%)					目標値
	62.9	58.6				70
まちづくり指標	市民と一緒にになって地域活動に取り組んでいる職員の割合 (%)					目標値
	54.0	55.0				66

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)

○市民意識調査 61.8% (策定値比▲0.4%)

・ほぼ横ばいとなっており、まちづくり指標との因果関係について分析は難しいが、情報発信に対する満足度の向上と地域活動への参加の減少の相殺で、結果として横ばいという結果であると分析している。情報発信の充実には引き続き努め、市民及び職員の地域活動への参加意欲をより高めることで、割合の上昇が望めると考える。

○まちづくり指標「市の情報発信に満足している人の割合」62% (策定値比+14.7%)

・性別にみると女性で 18.0 ポイント上昇している。年代別では 20 代～60 代でいずれも 10 ポイント以上上昇しており、特に 40 歳代においては 26.4 ポイント上昇しており、子育て世代の女性の満足感が特に高まっているということが分かる。

○まちづくり指標「地域活動に参加したことがある人の割合」58.6% (策定値比▲4.3%)

・性別では女性で 6.5 ポイント、20 代～60 代でいずれも減少しており、特に 30 代で 17.5 ポイント減少と、情報発信に対する指標とは全く逆の結果となっている。共働き世帯が増えているのか、意識的な問題なのか、なかなか地域活動に働いている世代が顔を出す機会が減っているという状況がわかる。

○まちづくり指標「市民と一緒にになって地域活動に取り組んでいる職員の割合」55.0% (策定値比+1.0%)

・目標値に近づけるためには、職員研修を充実させ、職員の意識の変革と働き方改革をさらに進める必要がある。

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み (案) 見直し・改善 (案)	いつまでに
(1) 多様な情報発信 ・時代の変化とともに情報の取り方は変化してきている。発信内容・発信媒体・多言語など、多様なニーズに少しでも応えられるようにしていくことが必要であると考え。	◆ホームページのリニューアルを行い、見やすく分かりやすい情報発信の「核」とする。	R2.12
	◆市公式 LINE の実施について、その効果や運用について研究し、必要に応じ実施していく。	R2.3
	◆さらなる多言語翻訳対応について、最新の技術を調査研究し、導入に向け検討していく。	R2.3
(2) 参加・参画意欲の創出 ・定年延長や共働き世帯の増加など、こちらも雇用情勢や個人の意識は変化してきている。いかにまちづくりに参加・参画してみたいという気持ちになってもらうか。様々な切り口で考え、次代のまちづくりの担い手を育む必要がある。	◆市制施行 50 周年記念事業にかかる市民会議について、検討から実践の段階に移っていく。実践の段階でさらなる人材の発掘や育成をはかっていく。	R2.3
	◆年々増加する外国人の方も大切なまちづくりを担う市民の 1 人である。外国人の方が地域活動に参加・協力できるようにするためにはどうしたらよいかを調査研究していく。	R2.3
(3) 職員研修の充実 ・「仕事と生活の調和」が職員のモチベーションを高め、自己の持つ能力を十分発揮させるとともに、地域活動への積極的な参加を可能にする。そのための研修の機会を階層別に創出し、職員力の底上げを図る必要がある。	◆管理職、主査等を対象に、マネジメント力や効率的な仕事の進め方などを学ぶ「オーナーシップ研修」を実施する。	R1.12
	◆市制 50 周年記念事業を若手・中堅職員の実践研修の場として位置づけ、本年度はプライベートを企画し、地域に協力を働きかけ、実施する。	R2.3
	◆若手職員を対象に「働き方改革」研修を定期的実施し、ICT化や業務改善につなげる。	R2.3

Ⅴ. 第 6 次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

目標(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	今後の財政見通しでは、公共施設の老朽化に係る財政負担、少子高齢化の進展に伴う社会保障関連経費の増加が見込まれ、市の財政運営に大きな影響を及ぼすことが予想されます。そこで、財政運営に関する情報等を市民と共有するとともに、“入るを量りて、出ずるを制す”の考え方にも留意し、歳入・歳出の両面から財政基盤の強化に取り組むことが欠かせません。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 市の財政運営に対する理解が深まっています。 ◇ 市税などの財源が確保されるとともに、事業の見直しと重点化により真に必要な事業が実施され、少子高齢化に見合った持続可能な財政運営が行われています。 ◇ 機能複合化による公共施設の再編、改修による長寿命化等の取組みが市民に理解され、公共施設総合管理計画が着実に推進されています。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 市の財政運営や税金に関する情報など、市民の知りたい財政情報を積極的にわかりやすく発信します。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆平成30年度の「財政情報発信計画」を策定した。 ◆「平成29年度高浜市の予算の使いみち」に、市の税金の正しい理解を広めるためのページを設けた。また、中学生でも読みやすくなるように漢字にルビを振るなどの工夫をした。 ◆「市の財政情報の発信を考える」ワーキンググループのあり方について検討した。 	<p>H30.4 H30.4</p> <p>H30.4~H31.3</p>
(2) 工業用地の創出、市税徴収力の強化、受益者負担の適正化など、財源の確保に努めるとともに、真に必要な事業を見極め、限りある財源のより効率的・効果的な活用に取り組みます。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆公共施設使用料の見直しに向け、施設別利用率の調査及び施設別決算額の調査等を行い、改定案を作成した。 ◆経常経費の見直しのため、先進的な取組みを行っている自治体を調査・把握し、基本方針案を作成した。 ◆平成31年度の当初予算編成に向け、職員に対し、市の財政状況についての説明会を開催した。 ◆L GWAN回線を活用したペーパーレス会議システムを導入した。 ◆学校でのコミュニケーションを円滑に行うため、外国語翻訳端末を活用し、検証を行った。 ◆地図情報をプラットフォームとする統合型GISを導入した。 ◆AI、RPAの導入について、検討・実証実験等を行った。 (AI、RPA等の導入可能性について、全庁で意向調査を実施。市民の問合せのテキスト化及び分類、適切な回答の作成の自動化検討。音声こころ分析サービスの実証実験。表彰業務の自動化検討。健診票の読取り及び請求書作成の自動化検討。) ◆中部電力と3G回線を利用した見守りサービスの検討、実証実験を行った。 	<p>H30.6~H31.3</p> <p>H30.4~H31.3</p> <p>H30.9 H31.3</p> <p>H30.6~H31.3 H31.3 H31.3</p> <p>H30.10~H31.1</p>
(3) 公共施設の再編や長寿命化に対する市民の理解を高めるとともに、順次、個別施設計画を策定し、公共施設総合管理計画の着実な推進につなげます。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆平成29年度に改定した「公共施設総合管理計画」及び「平成30年版公共施設・インフラ施設推進プラン」を公表した。 ◆「平成30年度公共施設推進プランスケジュール」を作成し、議会に報告した。 ◆公共施設総合管理計画を着実に推進するため、個別施設計画の策定に向けたセミナーに参加するほか、近隣5市の公共施設総合管理計画所管部署と情報共有を図った。 ◆施設のあり方や機能移転について、施設所管グループ等と意見交換、ヒアリング等を実施し、「平成31年度版公共施設・インフラ施設推進プラン」を作成し公表した。 ◆高浜小学校等整備事業の工事に関する定例会を週1回、工事及び運営に関する総合定例を月1回のペースで開催し、第一期工事を竣工した。 ◆高浜小学校児童を対象にワークショップを開催し、諸室のサイン表示や窓のデザイン、瓦の卒業制作など多くの機会が児童が建設工事に関わることができた。また、児童を対象とした工事現場見学会を開催し、完成前にしか見られない現場の様子を見せることができた。 ◆新校舎完成後、竣工式・内覧会を開催し、多くの市民の方が新しい校舎の中を見学した。 	<p>H30.4</p> <p>H30.6</p> <p>H30.5~H31.2</p> <p>H30.11~H31.3</p> <p>H30.4~H31.3</p> <p>H30.4~H31.3</p> <p>H30.4~H31.3</p> <p>H30.4~H31.3</p>

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	将来を見据えた財政運営を行っているまちだと思ふ。(%)					
	46.6	45.1				
みんなで目指す まちづくり指標	経常収支比率 (%)					目標値
	88.8	89.3				80 台維持
まちづくり指標	将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合 (%)					目標値
	46.6	45.1				55
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)						
<p>○市民意識調査「将来を見据えた財政運営を行っているまちだと思ふ」45.1% (策定値比▲1.5%)</p> <p>○まちづくり指標「将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合」45.1% (策定値比▲1.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 性別では、男性が1.6ポイント低下、女性が0.9ポイント低下と、ともに低下しているが、男性の「そう思う」の割合は0.7ポイント上昇している。 年齢別では、70歳代で8.9ポイントの大幅な低下となった。その一方で、中年層である40・50歳代では3から4ポイント上昇した。また、「そう思う」の割合は、20歳代で4.3ポイント、50歳代では5.9ポイントと大幅に上昇している。 小学校区別では、箕小学校区で7.6ポイント低下し40%を下回った。地区においてバラつきが出始めてきた。 将来を見据え、公共施設総合管理計画や長期財政計画を作成し公表しているが、性別や年齢などを問わず誰もが財政状況に関心を持ち、理解することに繋がる取組みや工夫が必要となってきた。 <p>○まちづくり指標「経常収支比率」89.3% (策定値比+0.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「経常収支比率」は、直近5年間の平均値を用いて算出している。平成29年度の率が93.2%に上昇したことにより、平均値が0.5ポイント悪化した。平成29年度の率が上昇したのは、主に法人市民税の収入が減少したことが要因である。 「目標値」である「80台維持」は達成しているが、80%代後半の高止まりである。市税収入によって率が左右されないように、歳出面における取組み(経常的に支出される経費の見直しなど)の具現化が必要である。 						

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み (案) 見直し・改善 (案)	いつまでに
<p>(1) 財政運営への関心度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 性別や年齢などを問わず、誰もが財政状況に関心を持ち、理解することに繋がる取組みや工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆既存の情報発信(広報、ホームページ、当初・決算の概要、中学生向け予算の使いみちなど)を見直す。また、新たな情報発信について検討する。 ◆将来を見据えた計画である「長期財政計画」を、漫画やイラスト、グラフなどを用いてわかりやすく解説する冊子を作成し公表する。 	<p>R2.3</p> <p>R1:10</p>
<p>(2) 公共施設総合管理計画の推進</p> <p>○個別施設計画の計画的な策定</p> <ul style="list-style-type: none"> 国からは令和2年度までに策定することが求められている。 策定にあたっては、公共施設総合管理計画や長期財政計画と整合を図る必要がある。 <p>○高浜小学校等整備事業の着実な推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 新設の建物及び既存建物を周辺地域に配慮して安全に建設・解体する必要がある。 学校・地域交流施設運営者・事業者が、施設の運営について協議を行う場を設ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆全庁的な体制を構築し、公共施設マネジメント推進会議からの意見等も踏まえ、効果的かつ計画的に策定する。 ◆既存校舎を周辺地域の環境(近隣住民等)に配慮し安全に解体するとともに、新設の建物を安全に配慮して建設する。 ◆施設運営事業者や関係団体等と、第1期完成施設の運営における課題改善や、第2期完成予定施設の供用開始に向けた運営方法について意見交換を行う。 	<p>R2.3</p> <p>R2.3</p>

Ⅴ. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

目標(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	学び・文化・スポーツは、人づくりやまちづくりの土台となるものです。市民・地域・関係機関・事業者と連携し、学びなどを通して市民同士が個々の力を高め合うとともに、つながりを深めながら「高浜市が好き」「誰かのために役立ちたい」「住んでいるまちをよりよくしたい」といったまちづくりの原動力を育てていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 個人が培ってきた知恵・特技・体験などが、人づくりやまちづくりに活かされ、子ども・若者や大人がともに成長しています。 ◆ 学び・文化・スポーツ活動を通して市民同士の交流が深まり、「高浜市が好き」「市民や地域のために何かやってみたい」という市民が増えています。 ◆ 先人たちのあゆみやまちの魅力・自慢が市民共有の財産として継承され、まちづくりに活かされています。

II. 目標達成のための主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の実施内容）【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 市民とともにまちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・産業・景観など）を掘り起こし、守り、伝え、活かしていく活動を強化します。	
<p>【市誌編さん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 部会及び専門分野に分かれ、市内外での資料調査・聞き取りを進めた。事業の中間報告として、シンポジウム「窯業のまち・たかはまの産業風土とまちづくり」を開催した。 ◆ 「窯業」をテーマに大学生と市民が協働で4組に聞き取りを行い、シンポジウムと同日に成果発表会を開催した。聞き取り内容をまとめた冊子「高浜のやきもの産業と暮らし」を発行した ◆ 広報の奇数月1日号には「市誌編さんだより」を、毎月1日号には新たに「たかはまアーカイブ」（市民も執筆に参画）の連載を開始し、編さんの進捗や成果のアウトプットに努めた。 <p>【タカハマ！まるごと宝箱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 市誌編さんと連携し、市民同士が学び合う環境づくり、調査成果の定期的な発信を行った。 <p>【美術館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 瓦業界など事業者と連携した取組みを拡大した。（例：企画展と飲食店とのタイアップ、屋根の日イベント、「屋根を飾る展」における日本鬼師の会との連携 など） 	<p>H30.12</p> <p>H31.3</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>H30.8~11</p>
(2) 市民（特に子ども・若者）の「知りたい」「やってみたい」「役立ちたい」を応援し、市民同士が学び合い、高め合う場づくりを進めます。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 図書館では、夏休みに実施した「なに？なに？発見隊バッグ」など、子どもの好奇心や意欲を高める取組み、「音読教室」など読書を通じた市民交流機会の創出に努めた。 ◆ 美術館では、市民の知識・特技を活かした取組み（例：文協祭に合わせて会員が講師となった体験ワークショップの実施、華展や茶会など森克徳展盛り上げ企画の実施）、子どもとのつながり（例：夏休み自由研究講座、「森克徳展」児童・生徒の鑑賞）、子育て世代へのアプローチ（例：子育てママ座談会）など、市民参加・裾野拡大に取り組んだ。 	<p>—</p> <p>—</p>
(3) 「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市民レガッタ、シティマラソン等を各団体と協働で実施した。 ◆ スポーツ推進委員会を中心に、ファミリーバドミントン、ノルディックウォーキングの講習会を実施した。また、社会福祉協議会と連携し、ポッチャの普及に努めた。 ◆ 勤労青少年ホーム跡地活用事業について、民間事業者とスポーツ拠点施設のオープンに向けて協議・準備を行った。 	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】 学び（生涯学習やスポーツなど）を通して、人と人がつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う (%)					
	55.2	53.4				
みんなで目指すまちづくり指標	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合 (%)					目標値
	71.4	66.4				76
	将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合 (%)					目標値
	76.1	75.8				81
	持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合 (%)					目標値
28.5	27.9				35	

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

○市民意識調査 53.4%（策定値比▲1.8ポイント）

・男性（49.3%）に比べて女性（55.5%）の方が、意識が高い傾向となっている。

○まちづくり指標「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」66.4%（策定値比▲5%）

・いずれも減少となったが、特に減少幅が大きかった「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」については、策定値比5.0ポイント減少で、若い年代ほど低い傾向にある。居住年数の長短の影響もあるが、行事やまちづくり等への参加・参画機会が豊かかどうかが鍵になると考える。「自分のまちを知る」、「人とつながる」、「自分の知識・体験などを活かす」「誰かや社会のために役立っている実感」などを通じて醸成されると考えられるため、それらのきっかけづくりが必要である。

○まちづくり指標「将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合」75.8%（策定値比▲0.3%）

○まちづくり指標「持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合」27.9%（策定値比▲0.6%）

・「将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合」と「持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合」の指標については、いずれも微減であった。市民（特に子どもたち）の好奇心や学ぶ意欲が高まるような機会の充実、「こうなりたい」というロールモデルの提示・紹介（情報発信）、学びを活かせる機会を設けていくことなどにより、改善の方向に向かうと考える。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p>(1) 「まちへの愛着・誇り」を高める</p> <p>・本市では、人口が緩やかに増加しているが、大半は社会増（転入）である。子どもから大人へ、大人から子どもへといった世代間交流も含め、様々な角度からまちへの想いを育む裾野を広げていくことが重要である。</p>	<p>◆市誌編さん等を通じて、資料を探す・提供する、調べる、まとめる、写真や映像に残す、まちのことについて語り合うなど、それぞれの興味・関心・特技などに応じて、様々な世代が関わり合う機会を増やす。完成した市誌を用いた出前講座などを通じて、子どもたちにわがまちを知ってもらおう。</p> <p>◆来年は市制50周年、たかびあ（高浜小学校内）2期オープン、オリンピックの年である。近年、学び・スポーツ分野で活躍する市民が増えており、市誌編さん、図書館、美術館、スポーツなどの各種事業を通して、まちの様々な自慢・魅力を知り、まちへの想いを深められる機会を創出する。</p>	<p>いつまでに</p> <p>R3.3 （市誌の活用はR4.3）</p> <p>R3.3</p>
<p>(2) 学んだ成果の社会等への還元</p> <p>・「自分のための学び」にとどまることなく、「教える」「発表する」「活動する」など、社会の中で、あるいは次の世代のために様々な形で活かせる機会を創出することが大切である。</p> <p>・将来、教える側・活動を担う側に回るといった循環を見据え、市民（特に子ども・若者）の好奇心や意欲の高まりにつながる講座・体験・事業などを豊かにしていく必要がある。</p>	<p>◆図書館では、貸出機能重視ではなく、図書を通じた市民交流や、子どもたちの調べ学習といった課題解決型図書館を意識した運営を進める。子どもや保護者に向けたアプローチに力を入れる。</p> <p>◆美術館では、学校に活用を働きかけるとともに、ワークショップを市民と一緒に企画するなど、市民が知識・技能等を発揮できる場を充実させていく。</p> <p>◆このほか、市誌編さん、タカハマまるごと宝箱、たかはま夢・未来塾、スポーツなど各種事業を通じ、市民団体・地域・事業者等と連携・協力しながら活動の担い手・教え手の掘り起こしや活躍機会の創出に取り組む。</p>	<p>R3.5</p> <p>R3.3</p> <p>—</p>
<p>(3) 生涯学習・スポーツ施設のあり方</p> <p>・「公共施設総合管理計画」に基づき、施設の総量圧縮等を進める中で、市や市民にとって必要な機能は何かを考えるとともに、限られた財源の中で市の将来を見据えて取り組んでいることを、市民に丁寧に伝えていくことが大切である。</p> <p>・施設の複合化・集約化によって、できる限り今までのサービスへの影響を抑えつつ、新たな活用が生まれるような運営を行っていく必要がある。</p>	<p>◆図書館や美術館のあり方については、ボランティアなど、運営に関わっている市民・団体を中心に、今後必要な機能は何かについて意見交換しながら、方向性をまとめる。</p> <p>◆「たかびあ」（高浜小学校内）について、複合化の効果を意識した運営を行う。2期オープンについて、市制50周年も絡めて市民とともに盛り上げる企画を検討する。また、メインアリーナ・サブアリーナへの機能移転に向け、体育センター定期利用者など施設にゆかりの深い団体を対象にした説明・意見交換を行う。</p>	<p>R3.3</p> <p>R3.3 （機能移転説明はR2.3）</p>

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

目標(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	学校、家庭、地域が「子どもの学びや育ちをつなげる」という意識をもち、力を合わせます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 子どもが、自分の成長に気づいたり、目標を抱いたりしています。 ◇ 子どもが、地域に関心をもち、自分ができることを考え、実践しています。 ◇ 子どもが、主体的・対話的で深い学びをしています。 ◇ 子どもが、個に応じた教育を受け、個性を伸ばさせています。

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 異校種間連携事業で、自分や周りのよさに気づいたり、よさを活かしたりできるよう、支援します。また、異校種参観で教師力を向上させ、子どものよさを引き出す指導を展開します。	
◆ 小学校との違いで戸惑いがないかを調査する中1アンケート(意識調査)を実施し、その結果を分析したことで、異校種間連携事業の取組を見直すことができた。	H30.8
◆ 異校種参観が各園・各校間で確実に行われるようになってきている。教職員が異校種参観をすることで、自らの指導を振り返り、発達段階に応じた支援・指導を見直す機会とした。	H30.12
◆ 上級校への円滑な接続の実現を目指して、異校種間での取組(生活科の授業に園児を招待する活動など)をより充実したものとなるよう見直し、実践できた。	H31.2
(2) 高浜カリキュラムで、高浜の人・もの・ことを活かした教育を実践します。また、活用型のカレンダーを使って「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知します。(3) 高浜カリキュラム教科版で、優れた授業実践案を集約・活用したり、ICTを活用した授業や、高浜版プログラミング教育を実践したりして、主体的・対話的で深い学びを支援します。	
◆ 高浜版プログラミング教育における「めざす子どもの姿」や小学校の各段階における到達目標を作成し、コンピュータ教育ソフトやたかはま夢未来塾と連携したロボット体験等のカリキュラムを策定することで、小学校の高浜版プログラミング教育を構想した。	H31.2
◆ 小中連携したCAN-DOリストを作成し、令和元年度から活用するため、各校に配付した。	H31.3
◆ 「高浜カリキュラム」「高浜カリキュラム教科版」を各校で実践し、今年度の取組として積み重ね、再編した。	H31.3
◆ 「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を意識した生活を送るために、市内の全園児・児童・生徒全員に活用型のカレンダーを一冊ずつ配付した。	H30.4
(4) 支援の必要な児童生徒の特別支援ファイルの作成と引継を確実にを行うシステムを構築します。また、教職員の特別支援教育への理解をより深めるとともに、指導力・実践力の向上をめざした研修を充実します。	
◆ 高浜高校において市内中学校から引き継いだ特別支援ファイルの継続活用を試験的に実施した。	H30 年度を通して
◆ 高浜高校と市内中学校で支援情報の連絡会の在り方について検討をした上で会を実施した。	H31.3
◆ 幼保と小、小と中、中と高の間で連絡会を実施し、支援情報の引き継ぎを行った。	H31.3
◆ 年度当初の特別支援CD会で、特別支援ファイルの引き継ぎモデルについての周知を実施した。	H30.4
◆ 通級担当者研修を年3回、4月、7月、1月に実施した。	H30 年度
◆ 特別支援学級担当教員研修をこども発達センターと共同開催で実施した。	H30.8

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)
市民意識調査	【設問】学校・家庭・地域が連携し、子どもの12年間(4歳~15歳)の学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思う(%)				
	58.8	62.0			
みんなで目指すまちづくり指標	自分や周りのよさを認める子どもの割合(%)				目標値
		78.5	90.3		85
	地域や社会に関心をもつ子どもの割合(%)				目標値
		59.2	74.5		70
	学習が将来、役立つと感じている子どもの割合(%)				
	76.7	80.4			目標値
					85

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

○市民意識調査 62.0%（策定値比+3.2%）

- ・市民意識調査が上昇したのは、平成 29 年度まで 1 家庭に 1 冊で配付していたカレンダーを平成 30 年度より 3 歳以上の子ども全員に「高浜市が育てていきたい生活習慣・学習習慣」カレンダーを配付したことで、学校の行事や子どもたちの学ぶ姿等、学校の取組を市民に情報発信できたからだと考える。
- ・子どもから子育て世代の 10～30 歳代のポイントが上昇していることから学校に関わる世代には 12 年間の学びや育ちを意識した取組が理解されていることがわかる。
- ・高浜小学校区で、8.8 ポイントの上昇が見られ、新しい校舎で新たな学校づくりが市民に受け入れられている結果と考える。義務教育までの子育てから離れる 40～60 歳代世代への周知が課題となる。今後も学校・家庭・地域の連携を図り、学校の取組を充実させ、その様子を情報発信していく。

○まちづくり指標「自分や周りのよさを認める子どもの割合」90.3%（策定値比+11.8%）

- ・支援が必要な子に対して特別支援ファイルを作成し、次年度への引継ぎを確実にを行うようしている。継続した支援は、子どもにとって安心感や自信をもつことにつながると考えられる。また、特別支援について様々な教員を対象に研修を行っている。研修を受けた教員が、個に応じた指導を学校で展開している。これらのことが子どもの自己肯定感を高め、自分のよさに気づいた子は結果として周りのよさも認められるようになったと考えられる。

○まちづくり指標「地域や社会に関心をもつ子どもの割合」74.5%（策定値比+15.3%）

- ・児童・生徒の意識や行動に関するアンケートの「高浜のひと・もの・ことに関心」が全体で 31.5 ポイント上昇している。昨年度よりプログラミング教育、外国語活動を小中連携で新たに取り組み、広く物事に関心をもつ児童生徒が増加したからだと考える。また、高浜カリキュラムにおいて「地域の行事や地域で活躍する人」「福祉や防災」など、高浜のひと・もの・ことに焦点をあてた学習を教員が毎年見直しを図りながら、子どもたちの実態を捉え、実践を重ねた成果とも考える。今後も、社会の情勢、子どもたちの実態を捉え、新たな教育に対応できる教員を育て、実践していくことが課題である。

○まちづくり指標「学習が将来、役立つと感じている子どもの割合」80.4%（策定値比+3.7%）

- ・「学習が将来、役立つと感じる子ども」の割合が上昇しているのは、幼・保育園と小学校、小学校と中学校の異校種間連携事業が定着し、園児児童生徒が将来の自分の姿を上級生の姿から想像し、目標をもって学習に取り組んでいるからだと見える。目標値 85%を達成するために、児童生徒がもつ困り感を理解し、効果的な取組を教員が工夫していくことが課題である。

- ◆「児童・生徒の意識や行動に関するアンケート」において、全体的にポイントがかなり上昇している。児童生徒の自己肯定感が高まったことによるものか、来年度の指標に注視し、比較・分析しながら、第 7 次総合計画に向けた方策を考えたい。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p>(1) 新たな高浜カリキュラムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の移行期間である今、市内の方向性を統一していく必要がある。児童生徒の興味関心と高浜市が育てたい力を見極め、新たなカリキュラムを実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高浜版プログラミング教育の全体構想を基に、平成 31 年度より全小学校 4・5 年生で実施する。ロボットプログラミングについては 2 校でモデル授業を行い、令和 2 年度完全実施を目指す。 ◆外国語教育を推進するために作成した、小中連携の市内統一 CAN-DO リストを活用した授業実践に取り組む。 	R2.3
<p>(2) 異校種間連携事業の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育現場においても働き方改革が推進される中、より効果的な異校種間の連携の在り方を考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生徒理解のため「中 1 アンケート」を実施している。事業の見直しにつながる実施方法・質問内容を検討する。 ◆学校で行事の見直しが図られ、異校種間連携事業の精選も必須となっている。実施方法の見直しを図る。 	R2.3
<p>(3) 個のニーズに応じた教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校で作成している特別支援ファイルの学校間の確実な引継ぎを進めているが、支援情報をどのように関係機関と共有していくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆園、学校、発達センター、社会福祉協議会等で支援が必要な子の支援情報をどのように共有しているかを検討する。 	平成 31 年度を通して話し合う

V. 第 6 次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

目標(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	行政、地域、保護者の職場となる企業なども積極的に関わり、子どもが健やかに遊び、成長し、また、保護者が安心して子どもを産み育てることができるよう、子育て・子育てを総合的に支援する環境を整えていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 安心して子どもを産み育てられる教育・保育環境や保護者が働く職場環境が整っています。 ◇ 身近な大人をはじめ、市内の大人が子どもの目線を大切にし、子どもの遊びや成長を温かく見守る視点が常に共有されています。 ◇ 日頃から子どもが気軽に集え、自然に世代間交流ができ、子どもがのびのびと活動できる身近な場所が整っています。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1)「高浜市子ども・子育て支援事業計画」に沿って、多様で柔軟な保育サービスの提供など、教育・保育二一ズに対応し、待機児童ゼロをめざします。	
◆平成30年7月に清心会が(仮称)たかとりこども園舎新築工事に着工し、平成31年3月に竣工予定。平成31年2月に高取保育園解体工事の入札公告を実施。4月の開園に向けた準備が進んでいる。	H30.4~
◆平成31年1月から高浜幼稚園の民営化及び認定こども園化の移管事業者を募集。3月中に移管事業者を決定。移管に向けた準備が進んでいる。	H31.1~
◆平成30年11月に吉浜北部保育園園舎の耐力度調査が完了。躯体の耐力度が確認された。大規模改修に向けた準備が進んでいる。	H30.11
◆公立の小規模保育事業を実施するため、平成30年12月補正予算で改修工事費を確保した。事業開始に向けた準備が進んでいる。	H30.12~
◆平成31年1月より二一ズ調査を実施し、平成31年3月末までに調査結果を集約。計画策定に向けた準備が進んでいる。	H31.1~
(2)子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、子育て・子育てを支える大人を増やしていきます。(3)身近な場所に、子どもの自主性・社会性をはぐくめるよう、自然に世代間や異年齢交流などができる場を増やしていきます。	
◆平成30年度も継続して、子育て支援員研修を実施するとともに、新たに地域向け子育て・子育て支援講座を実施し、子育て支援に関する市民の理解が深まった。	H30.5~
◆子育て支援ネットワークのポータルサイトやメールマガジンなどにより、子育て家庭への情報提供を行ったことにより、子育て家庭への情報提供が図られた。	H30.4~
◆夏休み等に、児童センターを利用する子ども向けに、地域の人材を活用した講座を開催したことにより、地域の人材の活用ができるとともに、子どもと地域人材の交流機会を設けることができた。	H30.7~8

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)	
市民意識調査	【設問】子育て・子育てを支える環境が整っているまちだと思う(%)					
	54.7	55.5				
みんなで目指す まちづくり指標	子どもを産み育てやすいと感じている人の割合(%)					目標値
	66.0	65.9				70
	子どもに対して理解のある大人の割合(%)					目標値
	66.2	70.1				94
	待機児童数(人)					目標値
	17	19				0

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

○市民意識調査 55.5%（策定値比+0.8%）

・「そう思う」の割合は2.6%増加しており、「そう思わない」の割合は3.7%減少していることから、はっきりとそう感じている割合は着実に増えているといえる。

○まちづくり指標「子どもを産み育てやすいと感じている人の割合」65.9%（策定値比▲0.1%）

・ほぼ横ばいとなっている。しかしながら、「どちらかといえばそう思う」の割合が2.9%減少して「そう思う」の割合が2.8%増加していることから、よりそう感じている人が増加していることが伺える。

○まちづくり指標「子どもに対して理解のある大人の割合」70.1%（策定値比+3.9%）

・特に男子で62.6%から68.4%と5.8%増加している。

○まちづくり指標「待機児童数」19人（策定値比+2人）

・横ばいとなっている。

◆以上のことより分析される結果としては、様々な子育て支援策を展開していることから、それが環境が整っている、育てやすいと感じる人の「そう思う」の増加に寄与していると思われるが、待機児童が発生している状況や、保育園の入園に不安を抱える状況もあることから全体としては上昇を抑える結果になったと思われる。

◆また、大人と子どもが交流する機会であったり、地域に関わりを持つ方も多種多様となっていることから、子どもが自分を理解してくれる大人がいると感じる場面も多いことが数値に現れたのではと思われる。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p><u>(1) 待機児童の解消</u></p> <p>・待機児童が発生している状況を改善することは、子どもを産み育てやすいと感じている人の割合の上昇に直接的な影響を与えるものであり、待機児童解消をする必要がある。</p>	<p>◆待機児童が発生している1、2歳児向けの小規模保育園を公立幼稚園の空き教室を活用し開園する。</p> <p>◆高浜幼稚園の民営化に伴い、待機児童が発生している1、2歳児を受け入れる認定子ども園化を実施して1、2歳児の受け入れ枠を増やす。</p>	<p>R1.6</p> <p>R2.3</p>
<p><u>(2) ニーズに即した支援策の展開</u></p> <p>・「子育て・子育てを支える環境が整っているまちだ」という数値を上昇させる上ではニーズに即した子育て支援策を展開していかなければならない。</p>	<p>◆ニーズに即した子育て支援策を実現するためにアンケート調査を踏まえて子ども・子育て支援計画を策定する。</p>	<p>R2.3</p>
<p><u>(3) 子どもに関わる大人の増加</u></p> <p>・子どもに対して理解のある大人の割合については上昇しているが、目標値を達成するには、更なる機会の創出、意識の向上が必要である。</p>	<p>◆子どもに目を向ける大人を増やせるように子育て支援員研修や地域向けの講座を実施して、地域で活躍する人材を育成する。</p> <p>◆子育て支援ネットワークのポータルサイト等を活用し、子育て中の方だけでなく、子育て支援に関わる方にも役立つような情報提供を充実していく。</p>	<p>R2.3</p> <p>R2.3</p>

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

※30ページ以降は、第3回推進会議での配布となります。